師團は昭和十六年十二月太平洋戰爭勃發以來臺灣を基地とし比島作戰に參加しマニラの陷落後急遽緬甸方面作戰の爲泰國に轉進を命ぜられてより以來常に先制を以て寡兵克く敵勢力覆滅の指導方針を堅持し地上作戰協力に於ては保有兵力の關係上右航空擊滅戰成果に基く間接的協力を主体とし一萱少一部にて地上作戰直協を實施するは勿論なりて遂行せられ昭和十八年夏迄に於ては右方針に依り概ね所期の目的を達成し得たり

第一節　航空擊滅戰

第一款　指導方針

航空擊滅戰指導の方針は敵機を其の基地の空地に於て擊碎するに在り而して昭和十七年作戰開始當初に於ては敵空軍基地我が進攻威力圏内に存在せる關係上戰爆連合の部隊を以て適時之を壓倒擊滅するの機を有したりと雖も昭和十七年夏以降敵空軍緬甸より遠く印度及西南方部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

方面へ退避し後方に於て整備し逐次第一線に補給せらるゝに至りて上
りは實施逐次困難となり司偵隊の偵察活動の下等一線飛行場集結の好
機を捕捉し間歇的に戰爆連合の部隊を統合進攻せしめて戰果の獲得に
努むるに至れり
而して撃滅戰實施の要領に至りては攻撃努力の主体を飽く迄爆撃機の
捕捉殲滅に指向せられたりと雖も我が進攻を妨害すべき敵戰闘機に變
換せしことあり又昭和十八年初頭以來印支航空輸送の活潑となるや輸
送機をも攻撃目標とせり
又戰法は戰爆協同戰法を主体とせるも戰闘機僅少なる關係より爆撃隊
の夜間進攻或は戰闘隊獨自の進攻に依りたり
昭和十七年十月雨季明け後敵空軍の來緬回數逐增の狀況に至るも師團
は常に邀撃に依る戰果の增大を圖り進攻の一助として作戰を指導せり

第二款　昭和十七年三月末に到る作戰

本期間に於ける航空撃滅戰の指導は遠かに在緬英米空軍を殲滅し第十

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

五軍の緬甸攻略作戦に参與する頃く企圖せられたり即ち昭和十七年一二月十五日師團司令部臺灣より泰國首都バンコックに轉進するや直ちに第四、第十飛行團の戦爆連合部隊を以てラングーン（ミンガラドン）レグ、トング飛行場を攻撃したるも我亦晝間攻撃の爲比較的損害多く逐次晝間は戦闘隊を以てする空中戦闘夜間は爆（襲）撃隊を以てする夜間攻撃に移行するの戦法を採用し三月九日ラングーン占領後一時消息を絶ちたる敵空軍のマグウエに秘に集結しあるを發見せしも小規模攻撃を實行するのみとなく優勢兵力集結迄之を放置し他方面に協力し努めて之を欺騙す

三月更に第七、第十二飛行團の指揮下に入るや同月二十一、二十二兩日全兵力を擧げて敵の緬甸内唯一の大根據地マグウエを急襲し一擧全機を撃滅し爾後第十五軍の作戦に至大の貢献を爲せり

第三款　第十五軍の緬甸戦定作戦間

本時期に於ける航空撃滅戦は米義勇飛行隊のラシオ雲南驛、英空軍

1397

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

バレル、アキャブを根據とせるゲリラ的出動に對する抬頭防止にして大なる作戰は生起せず

五月末以降十月中旬に至る間緬甸地方の雨季到來と共に部隊の主力を馬來半島に後退せしめ次期作戰の爲の訓練に邁進せしむると共に一部部隊の他方面轉用を命ぜられたり

第四款　昭和十七年雨季明け後に於ける作戰

昭和十七年三月末マグウエに於て潰滅的打撃を蒙れる敵英米空軍は西南支那方面に於ては雲南驛、東部印度方面に於ては、アキャブ、バレル、インパール方面に於て雨季間後方よりの補給を得て其の勢力逐次抬頭ぜり固より未だ本格的の進攻力無しと雖も其の萌芽を事前に芟除するにあらざれば爾後の作戰困難となるべきを豫想し雨季間馬來方面に於て次期作戰準備並に之が訓練に邁進せしめたる各部隊を以て先づ西南支那雲南驛方面の在支米空軍を攻てチャヂン、フエンニー方面の敵航空勢力の先制撃滅を敢行すると共に十二月東部印度に於ける航空根據

1398

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

地たるカルカッタの初空襲を實施し初期の方針實現に勉めたり

第五款　昭和十八年一月より八月に至る作戦

本期に於ける航空撃滅戦は我が兵力減少の一途を辿れりと雖も緬甸周邊地區に現出する敵機を努めて好機に捉へて撃滅する方針の下に指導せられたり但敵は逐次増強し緬甸國内に對する補給線遮断の攻撃に其の激烈度を加へ來り且地上に於ては昭和十七年十二月アキャブ方面に對する反撃に引續きマユ河畔及怒江方面に反攻し來れり

即ち航空撃滅戦と第十五軍の反撃作戦協力との節調愈〻巧妙を要し空地兩軍緊密一体的活動を要すべき秋は至れり

師團は前述指導方針の下機に投じ克く寡を以て衆に對し或は雲南驛、昆明の敵を或は東部印度チタゴン、フェニット等の敵を夫々攻撃し又はインパル方面に敵を奇襲する等寧日なき作戦に終始せり又本期に於ける航空撃滅戦に於ては舊臘來緬甸北部を通過する援蔣航空輸送の敵増に對し屢〻之が中繼基地たるテンスキアを急襲し或はシエウボ及ミ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

ツトキーナに戦闘隊の一部を潜伏せしめて途上に之が邀撃を策し以て多大の戦果を收めたり

本期航空撃滅戦の實行に方りては敵空軍の反撃亦強大となりし關係上飛行場内遮蔽分散の比較的困難なる重爆隊は馬來或はバンコック等敵攻撃威力圏外より夕刻緬甸内に進出せしめ翌日攻撃終了後速かに原基地へ後退せしむるを例とするに至れり

第二節　地上作戦協力

師團は前節記述の如く作戦指導の重點を航空撃滅戦に指向したるも第十五軍の後に緬甸方面軍の地上作戦に方りては密に之に協力する如く勉めたり

第一款　泰緬國境突破よりラングーン攻略迄

昭和十七年一月中旬第十五軍の南部泰緬國境を突破しタボイ及モールメン作戦開始せらるゝや師團は主として軍進直後在緬英米軍に對する航空撃滅戦を續行しつゝ機に投じ戦場上空の制空或は敵地上部隊の攻

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

擊等地上作戰直接協力に任じたるも概ねシッタン河の線迄は十分なる兵力を以て協力を具現し得ず爾後戰線の北遷に伴ひ航空擊滅戰の成果漸く現はれラングーン及トングー攻略に方りては比較的緊密なる協力を實施するを得たり

第二款　緬甸戡定作戰

本期に於ては昭和十七年三月末マグウエに對する航空擊滅戰の成果概ね完全なりしと兵力增加せられたる關係上緊密なる空地協同の作戰を遂行し得時にトングーより東方シャン高原地帶に迂回せる第五十六師團の前進をして迅速ならしめ或はイラワジ河左岸に沿ひ北上英軍を追擊せる第三十三師團に對しても亦好機に投じて同團の作戰任務達成に寄與せり

第三款　アキャブ方面反擊作戰

昭和十七年雨季明け後英印軍の海岸方面よりする反擊に方りては抬頭する敵航空勢力を壓倒しつゝ後方補送基地たるチタゴン附近の制空及

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第一線部隊の戰鬪に直接協力す

第三節　航空作戰と地上作戰協力との關係

作戰指導上師團は航空撃滅戰を主体とせるも所要の時機所望の場所に其の保有戰力を遺憾なく發揮し第十五軍一後の緬甸方面軍一の作戰を容易ならしむるに勉めたり即ち其の狀況前節に記述の如し

然るに昭和十七年十月緬甸の雨季明け後に於ては敵英米空軍の活動は漸く顯著にして來襲機日に日に其の數を加ふ加之師團は却つて他方面一般戰況に依り兵力を轉出せしめられ茲に尋常一様の手段を以てしては任務を成就し得ざるに至れり之が爲アキャブ反撃作戰時に於ては第四飛行團を以て地上作戰協力部隊と指定し該方面地上兵團と緊密なる連繫の下に作戰を遂行せしめつゝ好機一令一動の下第七飛行團と協同して緬甸周邊地區の敵航空撃滅に邁進せり

又昭和十七年雨季明け後敵機の來襲頻繁となり我が補給線の確保逐次困難となるや師團は主力を以て防空主任務に轉移せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第四節　越撃作戦

師團は進攻作戦に依り敵航空勢力を撃滅するを本旨とせるも敵空軍機種性能の向上は其の基地を遠く我が攻撃威力圏外に置き得るに至りしを以て我が進攻航空撃滅戦の成果は敵航空勢力の増加と共に望み薄く主として越撃に依る敵航空勢力の撃滅は重要なる作戦的價値を向上するに至れり是に由り昭和十七年雨季明けと共に敵の來襲増加するや師團は飛行場及要地上空に於て敵を迎撃すると共に地上軍戦線上空に於ける制空戦をも併せ實施し以て撃滅成果の増大を圖れり

即ち昭和十七年十月乃至十一月の間に於ては在メイミョウ第十二飛行團を以てトングー、マグウエ（含まず）以北、在トングー第四飛行團を以て同線（含む）以南に來襲する敵機を求めて越撃する如く部署し且本越撃に方りて隠時好機の進攻作戦實施に支障なき準備を指令せり

然れども本越撃作戦は當初情報隊の配置及其の素質等の關係上十分なる成果を收め得ざりしを以てラングーン要地の專任防空戦闘隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

レを適時指令するの外飛行場の防空は夫々所在戰闘隊を以て實施せしむることゝせるも電波探知機甲及日視監視哨の適切なる配置に依り逐次敵機事前發見を可能ならしめ迎撃の成果を向上せり迎撃戰に進展し地上戰空火器はラングーンに高射砲隊一、同大隊一一後に仰甸方面軍隷下に入るトングーに同大隊一を有し各飛行場には押收機關砲機ね三乃至六門を有し戰闘機の迎撃と相俟ちて相當の戰果を收むるに至れり

第五節　船團護

船團の實施せる船團護左の如し

一、昭和十七年六月アキャブ攻略及同年十二月該方面輸送護

二、昭和十七年、十八年雨季ベナンーラングーン間輸送護

三、昭和十八年アンダマン攻略時の護

昭和十七年に於ける船團護はアキャブ攻略時を除き大なる支障なかりしも昭和十八年に至りては米空軍にB24の裝備せらるゝに至り事次相

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

當の損害を受くるに至れり之が爲師團は雨季間と雖も船團護衛の爲スンゲイバタニ（所在訓練部隊を充當す）、ダヴオイに戰鬪隊の一部ミンガラドンに戰鬪隊の主力を配置し第三船舶輸送司令部と緊密なる連繫の下其の方全を期せるもラングーン河口に對する敵機の機雷投下頻繁となるに伴ひ補給輸送漸次逼迫するの狀況となれり

第六節　陸作戰

トングー占領後第十五軍は第五十六師團を以て同地より東方シャン高原地帶を迂回し重慶軍の退路たる滇緬ルートの要衝ラシオを占領せしむる如く計畫し其の占領直前第二師團に第七飛行團を協力せしめ使用を企圖して訓練の上昭和十七年四月二十九日トングーを出發せしめたるも目標附近天候不良の爲遂に實施することを停ずして中止するの止を得ざるに至れり

第四章　氣象概況

乾雨兩季の區劃明瞭にして赤道不連續帶の影響を受け五月末より雨季に入り十月初旬より乾季に入るを通常とす

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan